

えら病に関する研究一Ⅲ

アマゴとヤマメ稚魚のエラ病に対する硫酸銅薬浴について

立川 互

当场において、冬期マス類の稚魚に発生して大きな被害のある鰓病については、原因と対策がまだ明らかでない。¹⁾この疾病が、本年度はアマゴおよびヤマメの稚魚にも発生し、大きな被害があつた。病原体の確認はまだされていないが、症状的には、粘液細菌症の疑いが強いので、殺菌剤として硫酸銅を使用して、薬浴による治療実験を行なつたところ、著効があつたので報告する。

試 験 の 方 法

試験1：浮上期直前のアマゴ稚魚に鰓病が発生して1日数%の死亡が続いた。この群から浮上した稚魚を供試魚とし、昭和43年12月5日より1日おきに3回、硫酸銅($\text{CuSO}_4 \cdot 5\text{H}_2\text{O}$) 1/2000 1分30秒浴(水温7℃)を行なつた。

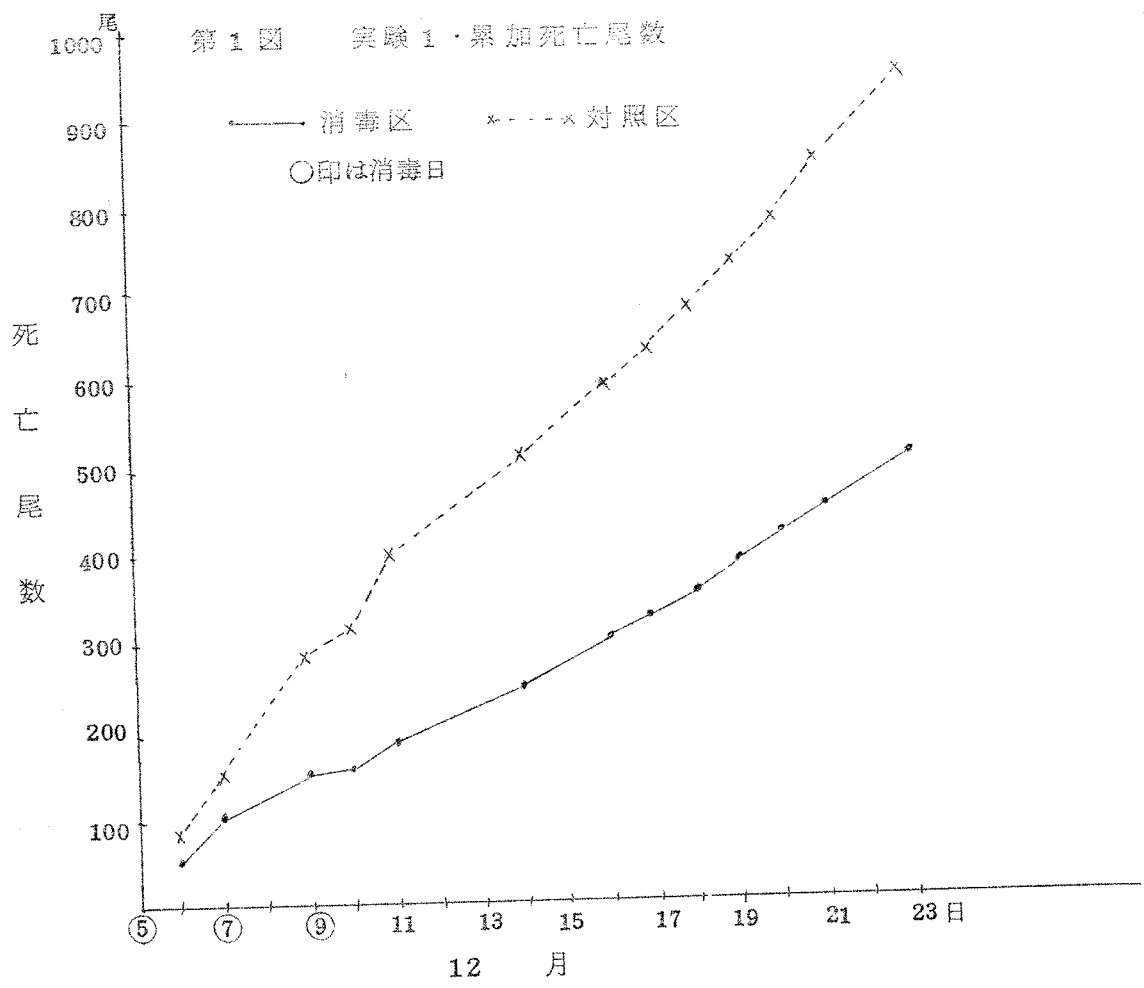
試験2：昭和44年1月10日頃浮上したヤマメ稚魚に、1月29日頃から鰓病が発生し、死亡が増加した。そこで、2月15日より1日おきに4回、硫酸銅($\text{CuSO}_4 \cdot 5\text{H}_2\text{O}$) 1/2000 1分30秒浴(水温7℃)を行なつた。

結 果 お よ び 考 察

実験1に於いては、第1表および第1図に示すとおり、死亡数は有意の差で、明らかに消毒区の方が少なかつた。しかし、消毒打切後も尚死亡が続き、3回の消毒では完治しなかつた。

第1表 実験1・死亡率

	消毒区	対照区
12・5 放養尾数	1,875 ^尾	1,435 ^尾
12・5~23 死亡数	509	951
同上 死亡率%	27.2	66.2

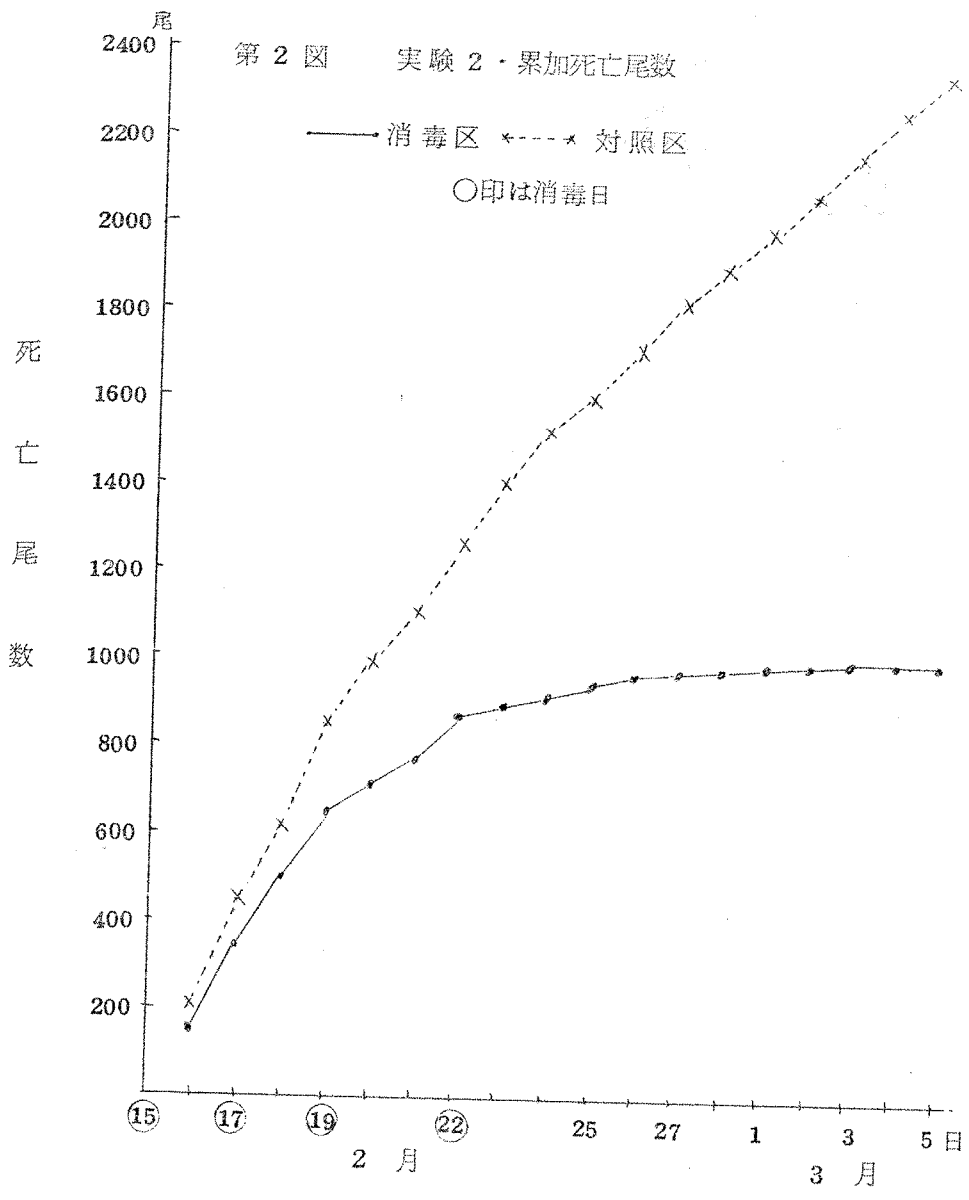


実験2に於いては、第2表および第2図に示すとおり、消毒区では、第3回消毒日頃より明瞭に死亡数が減少して、第4回消毒日頃にはほとんど終息し、明らかに効果があつた。

以上の結果から、一応殺菌剤の薬浴が効果的で、数回以上の反復或いは定期的な薬浴処理が有効と考えられる。原虫類は必ずしも検出されないから、本病の原因は、細菌或いはそれより小さい病原体によるものと推定され、病原体の究明と、より簡便で効果的な防除法の開発が今後の課題である。

第2表 実験2・死亡率

	消毒区	対照区
1・21 放養尾数	8,575尾	8,575尾
1・21~2・15 消毒前死亡数	2,242	1,823
2・16~3・5 消毒後死亡数	1,012	2,353
同上 死亡率%	16.0	37.8



より明瞭に
処理が有効
り小さい病
の課題であ

摘 要

- 1) 鰓病に対して、硫酸銅薬浴による治療試験を行なった。
- 2) 硫酸銅 ($\text{CuSO}_4 \cdot 5\text{H}_2\text{O}$) 1 / 2000 1分半の薬浴を1日おきに3~4回行なつて著効があつた。

文 献

1) 家坂剛正 1969 : ニジマス稚魚の鰓病について、岐水試研報 (42年度)、pp 72~77